2024 年度 群馬パース大学 看護実践教育センター 自己点検・評価

【課程名】看護護実践教育センター 認定看護師教育課程（摂食嚥下障害看護）

評価項目	自己点検・評価
教育課程	認定看護師教育課程の研修内容は、日本看護協会により策定された基準カリキュラムに基づき設計される。本教育課程においても当該基準カリキュラムを遵守の上、本学の建学の精神である「Paz（平和）平和で公正な社会の発展、Pessoa（個性）個人の尊厳と自己実現、Assistencia（互助）多様な人々の共存と協調、Zero（熱意）知の創造、への貢献」を達成すべく、開講期間 2024 年 4 月から 2025 年 3 月の 12 か月（うち、4 月から 8 月は e-learning)、共通科目 388 時間、専門科目 254 時間、演習・実習 165 時間の計 807 時間の教育課程を設計し、2024 年度をとおして計画通り実施した。教育課程の運営には、認定看護師として 10 年以上の経験をもつ専任教員 2 名および認定看護師として 5 年以上の経験を持つ専任教員 1 名の計 3 名が従事した。 教育課程の進行を補完するため、特に専門科目における知識の習得に難渋する学生には個別の学習支援を行っている。また、専門科目修了後は臨地実習に向けて準備期間を設け、看護技術の向上のための実践教材の提供、演習室の開放および個別指導を行っている。 臨地実習期間中は毎週教員が実習施設を訪れ、受講生との面談、臨地実習指導者と到達度の確認等を行い、実習の進捗を管理している。臨地実習後は学内に戻り、経験した事例を用いて事例検討会、実習報告会を行うことで知識・技術の定着を図っている。 教育課程の質を維持するため、対面授業開始後は毎回、受講生に授業評価アンケートの記入を依頼し、意見や要望、質問などを収集している。これらを次回以降の講義に迅速に反映できる体制を整えており、あわせて受講生へのフィードバックも行っている。2024 年度においてもこの仕組みに基づき必要な改善を行った。 当該年度の全学事日程を終えた修了予定の受講生 17 名に実施したアンケート（5 件法・「1：そう思わない」、「2：どちらかといえばそう思わない」、「3：どちらでもない」、「4：どちらかといえばそう思う」、「5：そう思う」以下、同様）では、以下のような各授業に対する満足度が得られた。 【以下の各授業は、学びを得るために役立ちましたか】 ① 共通科目講義：平均 4.94（±0.24） ② 専門科目講義：平均 5.00（±0.00） ③ 技術演習：平均 4.94（±0.24） ④ 臨地実習前事例検討グループワーク：平均 4.94（±0.24） ⑤ 臨地実習：平均 5.00（±0.00） ⑥ 事例検討会：平均 5.00（±0.00） ⑦ 実習報告会：平均 5.00（±0.00） ⑧ ケースレポート作成：平均 5.00（±0.00） いずれの項目も平均値は 4.9 以上と非常に高く、すべての授業が受講生にとって学びを深めるうえで有意義であり、満足度も高かったと評価できる。

評価項目	自己点検・評価
	以上の結果を踏まえ、当該年度の教育課程は計画に基づいて適切に運営され、所定の教育目標の達成に向けて有効に機能していたと評価できる。
教育成果	本教育課程は、日本看護協会による認定看護師認定審査において、過去4年にわたり現役生100%合格という成果を上げている。2024年度の認定審査は2025年10月に予定されており、修了生への対策として在籍中の問題集自主作成や修了後のフォローアップ研修（年2回）などの支援も行っている。 2024年度受講者22名のうち17名が修了した。未修者5名の内訳は、休学者2名、研修期間中の退学者2名、成績不良者1名であった。 受講生の成績は、授業科目ごとに5段階（A+：90点以上、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、F：59点以下）で評価している。修了者17名の状況は、特定行為研修対応16科目（共通科目14科目、区分別科目2科目）においてはA＋評価38.6%、A評価49.6%、B評価11.4%であった。共通科目の「相談」・「指導」・「看護管理」の3科目においてはA＋評価11.8%、A評価21.6%、B評価51.0%であった。共通科目群においては良好な成績分布が確認され、全体として学習内容の定着は良好であったと評価できる。 専門科目の成績評価においては、A＋評価9,8%、Ａ評価22,2%、B評価32.7%であった。特に、「摂食嚥下障害病態論」、「摂食嚥下障害援助論Ⅰ」および「摂食嚥下障害援助論Ⅳ」ではA+およびA評価が5割以上を占め、学修成果が高く評価された。一方、「摂食嚥下機能評価論」「摂食嚥下障害看護技術論」「摂食嚥下障害援助論Ⅱ・Ⅲ」など専門性の高い一部の科目ではA+評価が少数または確認されず、科目によって成績のばらつきがみられた。また、演習・実習科目についてはいずれの科目もB評価を中心に分布し、やや厳しい評価となった。これらの科目については、今後、理解度の定着を促すための指導方法の見直しや補足的支援の導入が望まれる。 当該年度に全学事日程を終えた修了予定の受講生17名に対して実施したアンケート（5件法）では、以下のような回答が得られた。 【以下の事項について、習得できたと思いますか】 ① 摂食嚥下障害看護に関する専門的知識：平均5.00（±0.00） ② 摂食嚥下障害看護に関するアセスメント能力：平均5.00（±0.00） ③ 摂食嚥下障害看護に関する看護技術：平均4.88（±0.32） いずれの項目も平均値は4.8を上回っており、認定看護師に求められる専門知識、アセスメント能力、看護技術の修得が一定程度達成されていることが示された。 これらのことから、授業計画は受講生の知識・技術の獲得に効果的であり、学修成果として一定の成果が確認されたと評価できる。 一方で、修了に至らなかった受講生の存在は、学習過程における理解度の不足、臨地実習での展開困難が要因として大きく、個別の支援体制の強化や学習困難の早期把握・早期対応の必要性を示している。今後は学習の進捗状況を可視化することや継続的な個別のフォローアップを図り、確実な認定看護師資格の取得につなげることが課題である。

評価項目	自己点検・評価
受講生支援	本教育課程では、全講義日に教育課程専任教員によるオフィスアワーを設けており、放課後も講義室を開放するなど、受講生が随時相談できる体制を整えている。また、専門科目開始までの e-learning 期間には、メールでの質問受付、遠隔会議システムを用いた個別指導、事例課題の添削指導などを実施し、学習支援を行っている。さらに、基礎的な知識の習得を目的とした自主参加型の基礎学習会を3回開催し、専門知識の取得を支援している。 臨地実習においては、県外で臨地実習を行う受講生に対し、寮などの住居情報を提供するなどの生活支援を行っている。 研修修了の 6 か月後に実施される認定看護師認定審査対策として、在籍中から問題集作成グループワークを企画・実施し、例年、受講生全員が参加している。修了後も継続的な学びを支援するため、フォローアップ研修を年 2 回実施している。 2024 年度の全学事日程を終えた修了予定の受講生 17 名に実施したアンケート（5 件法）では、受講生支援に関連する質問に対して下記の結果が得られた。 【本学の研修生への支援体制は役に立ちましたか？(教員や事務の対応など)】 平均 4.82（±0.38） これらの結果から、本教育課程における受講生支援は、学習および生活の両面において一定の成果を挙げているものと評価できる。
施設設備	本教育課程は、新幹線停車駅である高崎駅の隣駅から徒歩 10 分という通学に便利な立地にあり、主要幹線道路にも至近と利便性が高い。本教育課程のフロアは学生が専用で使用できるスペースとなっており、講義室、演習室、各種模型などの教材、休憩用のテラスなどを備えている。徒歩 3 分に本学図書館、書店があり、大学生と同様の条件でそれらの施設を利用できるなど、受講生の学修支援体制が整っている。 2024 年度の全学事日程を終えた修了予定の受講生 17 名に実施したアンケート（5 件法）では、施設設備に対する満足度が得られた。 【本学の施設・設備は学びやすい環境でしたか？】 ① 授業を受ける環境(教室、演習室など)：平均 4.65（±0.59） ② 授業以外の時間に集中して自習できる環境：平均 4.47(±0.70) ③ 学習のための図書や電子ジャーナルへのアクセス：平均 4.29(±0.89) 自由記載欄に「綺麗な専用施設を使用できる贅沢な環境だった」「不慣れな単身生活自体は苦痛だったが、交通の便がよく、生活には困らない環境だった」といった肯定的な意見が複数寄せられた。 これらの結果から、本教育課程の施設・設備は、受講生にとって学びやすい環境を提供しており、一定の満足度が得られていると評価できる。 一方で、項目③の評価が相対的に最も低く、自由記載欄には、図書館の開館時間の延長要望や、電子ジャーナルへのアクセス時に発生したシステムエラー等が報告された。今後は、こうした受講生の声を図書館や情報システム担当と共有し、施設設備の利便性やアクセス性向上に努めていくことが課題である。

評価項目	自己点検・評価
広報活動と 受講生確保の状況	本教育課程のリーフレットを制作し、全国の医療機関、関東近県訪問看護ステーション、関東近県老人保健施設、北海道・東北・関東甲信越の看護協会に送付している（約 1700 施設）。加えて、2024 年度より本学広報担当が群馬県内とその近県を中心とした医療・介護施設を訪問し、本教育課程の説明と受講生募集を行っている。 本教育課程のホームページでは、教育課程の概要、受講者選抜試験等の情報を整理し、閲覧しやすい環境を整備して公開している。さらに、より広い周知とホームページへのアクセスを促進するため、社会人の学び等の情報を取り扱う外部サイト「マナパス」にも本教育課程の情報を掲載している。 2024 年度の受講生数は 22 名で、定員（25 名）の 88%にとどまったが、2025 年度は受講生 24 名となり、定員をほぼ充足する結果となった。欠員 1 名は手続き締切直前の辞退によるものであり、追加募集を行う時間的余裕がなかった。 この経験を踏まえ、今後は安定的な定員確保に向けて、受講手続き期間や追加募集の実施時期についての見直しを進めている。